

平成26年6月定例会 予算特別委員会(平成26年7月2日)での主な質疑

(インターネット中継録画から個人が作成したもので正式議事録ではない)

前産委員(共産・宇治及び久世郡)

<p>(質問) 今回の補正予算に専用球技場整備費が計上されており、その(主要事項説明調書において)目的は環境保全や景観等への配慮を具体化し、公共事業評価を受けるための資料作成を行うとあるが、治水問題への対応が抜けているのではないか。</p>	
<p>→【答弁】 治水問題については、以前から議会での答弁のとおり、スタジアム予定地の亀岡市都市計画公園の盛り土をできる限り抑えるとともに、地下ピットの活用、駐車場の一部掘削などで対応することとしている。今後、具体的な内容は基本設計で示していくことになる。</p>	<p>文化環境部 理事</p>
<p>(質問) 環境保全や景観外の重大な治水問題というのが、基本設計の目的に入っていないというのは大問題だと思う。今までの答弁はわかっている。治水問題を十分踏まえてスタジアム整備をするということであり、それを目的に入れない基本設計というのはあり得るのか。</p>	
<p>→【答弁】 治水問題については、先程も申し上げたとおり、スタジアム予定地の盛り土をできる限り抑えるとともに、スタジアムの地下ピットに貯めることも含めて、この基本設計の中で、当然対応を検討していくものと考えている。</p>	<p>文化環境部 部長</p>
<p>(質問) そうであるなら、この基本設計において重要な位置付けをされるべきであると指摘しておく。 このスタジアム建設は治水上問題ないと言われているが、そういう考え方(冠水量)だけで問題ないと言えるのか。昨年の台風でも2m以上冠水したにも関わらず、治水安全度を向上させるといふ対策が全くない。スタジアムを建設しても、亀岡市区画整理事業を行っても、治水上に支障はないと言っているが、それは現状維持だと言っているに過ぎない。洪水のたびに浸水する場所に集客施設であるスタジアムを造るのであれば、抜本的な治水対策、治水安全度を向上させる対策も含めて示すべきだと考えるがどうか。</p>	
<p>→【答弁】 桂川の治水対策については河川整備計画などに基づき国や府で進められているところであり、スタジアムについては、設置することによって他の地域へ余計な水を押し出さない対策を行うものである。</p>	<p>文化環境部 部長</p>
<p>(質問) 一昨年、昨年と大災害が国内各所で発生している。その時に問題になったのは、無秩序な住宅開発やゴルフ場開発などを安易に認めてきたこれまでの開発行政の問題が露呈したとも言われている。 今回のスタジアム予定地は、遊水機能を有しており、洪水の時にはたびたび浸水するところであり、こういうところに抜本的な治水対策を示さずに、行政が率先をし、施設を次々に造っていくことが防災上いいのかということが問われているのである。このような治水問題にたいしても亀岡市民の理解が十分得られていない中で、何が何でもやるんだという姿勢でいいのかということである。 サッカースタジアムを造ると言っているのではなく、この場所に造るのであれば、アユモドキの問題も含め、誰もが賛成納得できるような対策を行って、皆が楽しめる施設にすべきだと言っているのであり、十分な検討を求め</p>	

平成26年6月定例会 スポーツ振興特別委員会(平成26年7月9日)での主な質疑 1/2

(インターネット中継録画から個人が作成したもので正式議事録ではない)

馬場委員(共産・京都市伏見区)

<p>(質問) ・スタジアムの治水対策の考え方について改めて確認したい。</p> <p>→【答弁】 ・以前の議会での答弁のとおり、河川整備基本方針において桂川については100年に1度の洪水を目標としており、スタジアムの治水対策についても、100年に1度の洪水を対象に検討している。 ・その時には、スタジアム予定地の浸水深は2.3mとなり、盛り土の影響対策が必要なるが、それはスタジアム予定地エリアの中で行うこととしている。 ・対応方法としては、盛り土を最小限にとどめ概ね2.1ha程度、それに浸水深を乗じると約4.8万m³程度の水量の影響分についての対策が必要と考えており、スタジアムのスタンド下の地下ピットや、駐車場を掘り下げて確保する計画で考えている。</p>	<p>文化環境部 理事</p>
<p>(質問) ・今説明のあった内容について、河川課に確認したところ、その条件において計算上は成り立つが、それで全てがうまくいくのかと言えば、必ずしもそうではないとも聞いている。 ・プラスマイナスだけの治水対策で本当に大丈夫と言えるのか。</p> <p>→【答弁】 ・開発に伴う治水対策は、一定規模の洪水に対してどのように対応できる施設を造るか、ということを考えるものである。 ・河川整備計画は現在策定中であるが、先程申し上げた100年に1度という目標は、国で既に策定している桂川の基本方針において最終目標としているものであり、それを用いているものである。 ・実際に100年に1度の洪水の時に、スタジアム予定地内でどのような挙動になるかどうことについては、これから行う基本設計において検証していくこととしている。</p>	<p>文化環境部 理事</p>
<p>(質問) ・歴史的にも遊水地域であるところで整備をしていこうとするならば、当然、河川の整備状況と進捗を合わせていく必要があると考える。 ・河川整備計画がまだ出来ていない中で、その整合性はどのようにしていくのか。</p> <p>→【答弁】 ・桂川の河川整備計画は、現在、河川管理者で策定中であるが、河川基本方針が将来目標であるのに対し、河川整備計画は今後20～30年くらいのスパンの整備を定めるものであるため、目標規模は基本方針の100年に1度よりも小さく、20年或いは30年に1度くらいと小さくなるのが一般的である。 ・今回の検討では、基本方針の100年に1度という目標で検討しており、それより小さい河川整備計画の目標とは整合は図れていると考えている。</p>	<p>文化環境部 理事</p>
<p>(質問) ・そのような考え方でいいのかどうことについては、河川管理者と調整はされているのか。</p> <p>→【答弁】 ・河川整備計画を策定するに当たり、どう場所でどのような開発が行われるかどうことについて盛り込まれると思っている。 ・スタジアムについても、今後の計画として盛り込んだ上で、計画検討されるものと考えている。</p>	<p>文化環境部 理事</p>
<p>(質問) ・では、その河川整備計画の検討中でどのような影響があるのか、改めて確認する必要があると思うがどうか。</p> <p>→【答弁】 ・スタジアムも含め、河川管理者において河川整備計画策定の中で考えていくものと思っている。</p>	<p>文化環境部 理事</p>
<p>(質問) ・河川管理者と十分連携をとって地元住民の不安が大きくなるように、しっかり対応すべきである。 ・そもそも治水的に問題を抱えている場所で建設を進めること自体どうなのかと思っており、改めてしっかりと検討されることを要望する。</p>	

平成26年6月定例会 スポーツ振興特別委員会(平成26年7月9日)での主な質疑 2/2

(インターネット中継録画から個人が作成したもので正式議事録ではない)

豊田委員(日本維新の会・京都市山科区)

<p>(質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタジアムが亀岡市に決まってから1年半経過しているが、当初から懸念のあったアユモドキはじめ環境問題、治水問題等が時折報道される。 ・こういう問題については、京都府が対応するのか、それとも誘致した亀岡市が対応すべきなのか、どういふふうになっているのか。 <p>→【答弁】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府と亀岡市の役割分担であるが、まず、用地選定の経緯としてスタジアム建設に必要な用地は市町村が提供することになっている。 ・その際、アユモドキの問題については亀岡市から専門家の意見を聴いており大丈夫であると説明を受け、京都府が選定したものである。 ・したがって、アユモドキを含む環境保全については第一義的には亀岡市で対応すべきと考えている。京都府はスタジアムの建設工事を行うという立場から、例えば工事中にコンクリートが周辺に流出しないようにするなど、工事実施に伴う環境への配慮を行うものと考えている。 ・治水問題については、用地選定の段階で、亀岡市が桂川の中の掘削土砂を持ってくるので大丈夫だという話もあったが、先程申し上げたとおり、スタジアム区域内で対応することもあり、京都府で検討していくこととしている。 ・基本的には用地提供する亀岡市と工事を実施する京都府が、それぞれに役割分担して進めていくこととしている。 	<p>文化環境部 理事</p>
<p>(質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亀岡市が用地を選定するにあたって、当初から、環境や治水の問題はある程度解決しておくべき問題ではなかったのかと思う。 ・今年度の運営目標には、スタジアムの整備に向けた取り組みを着実に推進しますとあるが、実際はそれ以前の段階の議論をまだ行っているようで、残念でならない。 ・私も文教常任委員長をし、スポーツ施設のあり方について議論もしてきたが、いまだこの問題があるということ自体考えにくいと言わざるを得ない。 ・用地選定の時点で、京都市、城陽市、亀岡市の3つの中では、亀岡市の誠実な姿勢は伝わってきたし、集客力という点では京都市の横大路の方があったかもしれないが、北部振興という点で知事が亀岡を選定された。そういう経過にも関わらず、いまだ入り口の議論に終始しているという状況であるが、この点はどう考えているのか。 	
<p>【答弁】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年に基本構想を策定し、環境保全、アユモドキとの共存を掲げ、環境保全専門家会議を立ち上げ様々議論いただいている。 ・京都府としても、アユモドキなど自然との共存はしっかり取り組んでいかなければならない問題だと考えている。 ・亀岡市では現在実証実験もっており、この結果や専門家会議の意見を踏まえながら基本設計を進めていきたいと考えている。 ・現在、当初の予定よりも1年遅れているが、このスケジュールの確保に努めて進めていきたいと考えている。 	<p>文化環境部 理事</p>
<p>(質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初の計画より遅れているということは、当初から懸念された課題が解消されていないということだと思う。 ・こういう言い方をすると共産党みたいで好きではないが、当初から懸念されていた課題が原因で遅れるというのは、やはり理解に苦しむ。 ・アユモドキに関する専門家会議においていまだ議論していて、その結果駄目となれば、スタジアムはやめるのか。 	
<p>→【答弁】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全専門家会議では、先生方の指導を受けながら、現地での調査、実証実験などを進めているところであり、その結果についてもこの会議で評価していただくことになる。 ・スタジアム整備についても、先生方の意見を聴きながら進めるので、現時点でこの計画が立ち行かなくなるということは考えていない。 ・引き続き、環境との共生を図りながら整備できるよう努力していくものである。 	<p>文化環境部 理事</p>
<p>(質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着実にステップを進めていってほしいと思う。 ・今回の定例会でも、与党会派の議員から集客や財政的な質問があった。共産党が質問するならいざ知らず、与党会派から質問が挙がるとうことは、府議会議員にも進捗が見えてこないからだと思うが、どのように考えているのか。 	
<p>→【答弁】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユモドキをはじめとする環境保全、自然と共生するスタジアムに向けて、丁寧にステップを踏んでいることは事実である。 ・一方で、今議会に1億円の基本設計費の予算を計上しているところであり、これによって大きな次のステップに進めるものと思っており、引き続き、着実に進めていきたいと考えている。 	<p>文化環境部 スポーツ政策監</p>
<p>(質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知事は、スポーツ政策監というポストも新設され、着実な進展を期待していると思う。 ・北部振興やスポーツ振興の拠点であり、足踏みしているのではなく、着実に進んでいるところを見せていただくよう努力願いたい。 	